



**内**子町を流れる小田川では、昭和59(1984)年に県によるコンクリート護岸への改修工事が開始されたのを受けて、流域住民らのコンクリートのない美しい小田川を未来に残す運動(美しい小田川を未来に引き継ぐ石一個提供運動、いかざき小田川はらっぱ基金)が実施されました。

その様な状況の中、昭和62(1987)年12月に小田川は、当時の建設省により「ふるさとの川モデル河川」に指定され、国費による玉石護岸の河川改修が施工されることとなりました。いかざき小田川はらっぱ基金は、現在小田川の維持管理費として活用されています。

事業は全長2,100mにわたって、生物の生息・生育環境整備を行った区間、



施工13年後の魚の避難場所(平成22年撮影)



親水整備箇所ワンド

親水性整備を行った市街地区間、その中間に位置づけられるレクリエーション施設を整備する区間等、高水敷の利用目的別に大きく5つのゾーンに区分され、実施されました。

洪水時の魚の避難場所として整備された生物の生息・生育環境整備を行った区間は、平成9(1997)年の整備完了後、堆積した土砂や植生の繁茂により、自然な凹凸を持った水際部が形成され、魚の避難場所としての機能を果たすとともに、良好な河川景観を呈しています。

また、親水整備を行った市街地区間も緩やかな傾斜を持つ河岸の前面に土砂堆積により自然なワンドが形成され、利用と自然双方に良好な環境を形成しています。毎年5月5日には小田川の河川敷で県の無形民俗文化財に指定されている大風合戦が開催されている他、沿川には五十崎風博物館やみちの駅内子があり、小田川は住民のコミュニティーの場、観光資源、自然体験の場という様々な顔を持っています。

